

## 第5回 はがきの名文コンクール

## ぜんそくのママへ 励ます言葉50通

**【五木寛之賞】**  
宮崎美空さん(7) 和歌山県  
  
郵便局に貼られた募集のポスターを見て、「応募したい」と自分から手を挙げた。ぜんそくに苦しんでいた母・真由美さんのために、2歳のころから、お守りを作っている。「ママだけ限定」とはいかない。毎年七夕の短冊に書く願いごとも決まっていて。年50通ほどにもなるという。「全部大切に持っています」。

五木寛之さん 体質や気質のような、心の相続が作品の中に出ている。人が抱えている苦しみまでも愛情に変えていくのだなど非常に感動した。

## 職人気質の父 不器用な感謝の一言

**【村山由佳賞】**  
金持真須美さん(64) 兵庫県  
  
妻父は応募して約1ヵ月後、93歳で亡くなつた。生前夫とよく言い争つていた。「ほつといてくれ!」「ほつとかれへん!」「なんでや!」  
人への好き嫌いが激しい、職人気質だった。スマートに説いた大正生まれの父。車椅子生活も3年目。先月引いよいよ点滴漸け入院となつた。彼のスキンシラウド。小さく折りたたんだ大きな紙が一枚。広げてみると、私夫の名前だけが書かれていたそれを見せて「わしのだいじ」と…。  
帰際、「またあしたね」と言うと、「わしのだいじやからしまく」とおへや上に両手でしました。  
お父さん、どうかおしまないでね。

村山由佳さん 亡くなる前の父と心のやりとりができる。どうやって見送ろうかと本人が葛藤していることが伝わってきた。いとおしい作品だ。

## バスに乗るあの子のためにお願い

**【斎藤孝賞】**  
後藤順さん(66) 岐阜県  
  
退職まで2年ほどになったころ。朝、自宅最寄りのバス停で、小学校低学年とおばしき女の子を、母親が心配そうに見送る光景を見かけるようになった。そのまま乗車ボタンを押すまで、乗客のみなさん、押さないでください。養護学校へひとりで通う少女ですよ。お母さんに教えられた「このボタンを押すよ」との手順が狂ってしまうと、バスから降りられなくなります。  
常連の乗客のみなさん。口伝えに、新しい乗客の方々に教えてもらえないでしょうか。いつも笑顔の可愛い赤い帽子をかぶった。運転席の後ろの席にいる子に、降車ボタンを押させやって下さい。

斎藤孝さん 「押さないように」と伝え合っている姿を想像して、いい情景だと感じた。バスが一つの間違いの社会になっている様子が想像できてよかった。

主催 はがきの名文コンクール実行委員会

協力 日本郵便、奈良県御所市、堺屋記念財団

後援 文部科学省、総務省、朝日新聞社

## 直接言えない思い込めて

## ゲーム制限 母に不満もあるけど

**【大賞】清原亮介さん(11) 大阪府**  
  
「ゲームの制限時間が友達より短い」と小学5年生の亮介さんは口をがらせた。1日30分だ。母・明日香さんは「そう言いながら、週に2日は2時間、多いときは4時間もやっているでしょ」。不満は確かに伝えているのか。「言えるわけがない」と言い張る息子の横で、「けつこうよく言ってます」と明日香さん。リ

ズムの良い掛け合いは、聞いていて飽きがない。遊びほうたいわけでは

ない。亮介さんが主張する理由は、塾には通り続け、勉強はきちんとした上で、

食事と入浴、睡眠以外の空

き時間すべてゲームにあ

てる生活だ。でも明日香さんは心配だ。寝るの忘

れてゲーム漬けにならない

かと。受賞者発表会では、深々

とおじきをして1人壇上に

上がり、自作が朗読される

のを聞いた。朗読の間は

すぐだったそうに身をよじ

った。受賞者の挨拶では、「おかげで勉強もでき

るようになつた。本当は感謝しています」。普段、言

えない母への思いを伝えた。

五木寛之さん 教育のような難しい問題を思いがけないところから書いていた。お母さんが好きだけれども、という親子の関係がとてもほほえましい。

## 地域の雰囲気まで浮かぶ

## 選考委員の講評

選考委員は作家の五木寛之さん、作家の山田佳さん、明治大学教授の斎藤孝さん。第1回を務めた故堺屋太一さん代わり、五木さんが選考に加わった。応募作の最年少は5歳、最高齢は10歳だった。最高齢は10歳だった。選考を終えて、五木さんは「若い方の作品は、自分のことだけではなく、家族や暮らしの環境が浮かび上がってくるがすごく面白かった」と振り返った。斎藤さんは「届ける言葉だけれど、その相手が一人ではないような感覚。そんな不思議な舞臺に人生が映されていると感じる」と語った。村山さんは「寄せられた2万7千通の向こう側に、どれだけの人生があるのだろうと想像すると、気が遠くなる。はがきという小さな舞台に人生が映されていると感じる」と語った。

山田佳さん、明治大学教授の斎藤孝さん。第1回を務めた故堺屋太一さん代わり、五木さんが選考に加わった。応募作の最年少は5歳、最高齢は10歳だった。最高齢は10歳だった。選考を終えて、五木さんは「若い方の作品は、自分のことだけではなく、家族や暮らしの環境が浮かび上がってくるがすごく面白かった」と振り返った。斎藤さんは「届ける言葉だけれど、その相手が一人ではないような感覚。そんな不思議な舞臺に人生が映されていると感じる」と語った。村山さんは「寄せられた2万7千通の向こう側に、どれだけの人生があるのだろうと想像すると、気が遠くなる。はがきという小さな舞台に人生が映されていると感じる」と語った。

△選考委員の（左から）斎藤孝さん、五木寛之さん、村山由佳さん  
●発表会に出席した、受賞者のみなさん=10月30日、東京都内

## ■そのほかの受賞者

【佳作】加藤葵衣さん（神奈川県）▽櫻井紹さん（愛知県）▽野口玲さん（青森県）▽綱島身知子さん（東京都）▽赤井美芳さん（大阪府）▽逸見洋子さん（東京都）▽坂下勇輔さん（北海道）

【日本郵便大賞】丸山薫生さん（福岡県）▽伯井誠典さん（大阪府）▽矢野さつきさん（奈良県）▽田村淳さん（和歌山県）▽白蓋勉さん（鹿児島県）▽林朋子さん（宮崎県）▽安田順子さん（岡山県）▽歴江康弘さん（神奈川県）▽寺坂通一さん（愛媛県）▽矢田稔さん（静岡県）

受賞作品はホームページ (<http://www.hagaki-meibun.or.jp/hagaki2019/>) に掲載されています。

◇この特集は興野優平が担当しました。

## エコリカちゃんへ 年賀状を送って

## 今年も やります!

## 100万 お年玉が当たる!

人と地球に貢献します  
eco rica

期間:2019年11月1日(金)～2020年1月11日(土)  
【応募方法】エコリカちゃんに年賀状を送っていた方の中から抽選で豪華賞品が当たります。詳しくはエコリカWEBページをご確認ください。  
①インクジェットプリンターで印刷したハガキに限ります。  
●ご応募1枚につき1円を地球環境保護団体WWFに寄付いたします。



**【1等】100万円(Visaギフトカード) 1名  
【2等】10万円(Visaギフトカード) 5名  
【3等】1万円(Visaギフトカード) 10名  
【4等】1,000円(QUOカード) 100名  
【5等】エコリカちゃん保冷ランチ袋 300名**

QRコード

エコで安くて高品質。  
エコリカリサイクル インクカートリッジ

100万 お年玉が当たる!



エコリカは全国の家電量販店などに設置している「エコリカ回収BOX」で使用済み純正カートリッジを回収し、リユース(再使用)しているリユース・リサイクルインクカートリッジのパイオニアメーカーです。純正カートリッジをそのまま再使用しているので製品自体がとっても「エコ」、プリンターとの相性も抜群です。もちろん純正品との混在もOK。製品化できなかったカートリッジも再生プラスチックなどにリサイクルしています。そんなエコリカ製品は



厳しい環境基準と品質基準をクリアし、全製品エコマーク認定を受けています。また、徹底した品質管理と品質で安心できるブランドとして、純正品以外のインクカートリッジ市場でシェア1位のご愛顧をいただいています。もしもの時も専任スタッフによる万全のサポート体制で安心です。ぜひ年賀状印刷にはエコリカをお選びください。

お買い求めは、家電量販店、PC専門店、カメラ量販店、ホームセンターなど全国6,000店舗以上で。

年賀状印刷はエコリカで決まり

TVC  
回収箱男 徳光さん

エコリカは5つの安心サポート ✓すぐに繋がる!電話接続率98% ✓専任スタッフが即時対応 ✓万が一の故障にプリント修理代金保証 ✓いざという時の故障に豊富な代替機貸出 ✓土・日・祝・年末もサポート ☎ 0120-114-865 月～土 9時～18時 / 日・祝 9時～17時 (12月31日まで、年始は1月5日から)  
エコリカは5つの安心サポート ✓すぐに繋がる!電話接続率98% ✓専任スタッフが即時対応 ✓万が一の故障にプリント修理代金保証 ✓いざという時の故障に豊富な代替機貸出 ✓土・日・祝・年末もサポート ☎ 0120-114-865 月～土 9時～18時 / 日・祝 9時～17時 (12月31日まで、年始は1月5日から)

[ecorica.jp](http://ecorica.jp) 株式会社エコリカ